

## 専門学科・総合学科の在り方

令和2年12月22日  
高等学校課

今後も続く中学校卒業生数と減少と、産業構造・就業構造の変化の加速を背景に将来求められる専門学科及び総合学科の在り方について議論をお願いします。

## 1 現状と課題

## (1) 専門学科（職業教育を主とする学科）

本県の全日制課程の高等学校（全22校）のうち普通科高校（10校）と専門高校（9校）を比較すると、専門高校は定員充足率が10ポイント近く低い（直近5か年平均：普通科約97%、専門学科約88%）状況にあり、中学生の進学先が普通科高校に偏重している。

産業界のニーズにおいては、専門技術を有する者が求められる中、中学生やその保護者等が高校進学での進路選択の際に、ふるさとキャリア教育を如何に施していくか、如何に専門学科を知ってもらうかが課題となっている。

## (2) 総合学科

総合学科高校（3校）の特徴は、国語、数学などといった共通教科と専門教科の中から、自分の興味や関心等に応じて科目を選択できることにあり、入学後でも目標を見つけることができる柔軟性にある。

一方で、総合学科高校では、芸術分野に強いなどの学校カラーや、高校卒業後の進路等が中学生にとって明確なものとなっていないと定員充足率が極端に下がるという傾向があり、その打ち出しが課題となっている。

<総合学科について>

総合学科は、普通教育を主とする学科である「普通科」、専門教育を主とする学科である「専門学科」に並ぶものとして平成6年度から導入。

## 2 現行の基本方針による学科の在り方についての考え方

各学科特有の課題の克服に向けた取組を充実させるとともに、地域の産業構造や就業構造の変化、生徒や保護者のニーズも踏まえながら、その配置等の検討を行っていくことが必要。

## (1) 専門学科（職業教育を主とする学科）

専門高校では、専門的な知識・技能を身に付けるとともに、各種資格の取得などを通じて、地域を担うスペシャリストを育成することが求められている。そのためは、高等学校教育の段階から、地元企業等と連携して、本県の産業界等のニーズに応じた人材を育成していくことが必要である。

また、これまでの高等学校改革による学級減や再編を経て、各地区の専門学科（小学科）の多くが、1学科1学級の規模となっており、同一の小学科が複数学級設置されている学校は少ない。このような専門学科において学級減を行うことは、地域からその小学科がなくなることに十分留意する必要がある。

## 【取組の方向性】

- 学校と産業界、行政機関等との連携を強化し、生徒に身につけさせたい力を共有して産業界のニーズに応じた人材を育成していく。
- 県内あるいは各地区で1学級規模となっている小学科の在り方に十分留意するとともに、今後の産業構造等の変化を見据えながら、学科の改編や複数学科をくくったコース制の導入などについても検討していく。

【令和8年度以降の考え方のポイント】

- 学校規模
- 大学等との連携
- 専攻科の設置

〔専攻科の事例〕

○三重県立水産高等学校『漁業専攻科』『機関専攻科』

2年間の課程で、遠洋航海実習や工場実習、座学を通して航海・機関に関する専門知識を習得し大型漁船や貨物船の船長・機関長、士官となるために必要な上級海技士免状の取得を目指す。航海系の漁業専攻科、機関系の機関専攻科を設置。

○三重県立四日市工業高校『ものづくり創造専攻科』

先進的な製品を生産するための幅広い技術・技能を有する中堅技術者の養成を図るため、2級技能士、第三種電気主任技術者、有機溶剤取扱作業者等の資格取得を目指す。コンピュータを利用した工作機械の取り扱いや機械設備の製作等を学ぶ機械コース、電気設備や電気回路の設計に加えてプリント基板製作等を学ぶ電気コースを設置。

(2) 総合学科

総合学科高校では多くの教科や科目が設定されており、生徒の興味や関心で選択できるという特徴はあるものの、「多くの選択科目が用意されているという特色が本当に活かされているか」、「選択科目が設置当初から見直されていないのではないか」との声も聞かれることから、生徒の実態や進路希望に即した科目設定となっているか常に検証していくことが必要である。

また、中学生やその保護者、地域に対して、学科の特徴が十分に理解されていない実態もあり、積極的な情報発信を行うことが必要である。

【取組の方向性】

- 生徒の進路希望をより一層明確にするためのガイダンス機能の充実や各系列の教育目標、育成すべき人材像を明確にした教育課程を編成していく。
- 小規模校が多いことから、機動性を生かし、地域と密着した魅力づくりを行うことや生徒自らが外部に積極的な情報発信を行うなど、生徒が将来の夢に向かって主体的に学ぶ取組を教育課程の中に体系的に位置づけ、個々の生徒の進路実現につなげていく。
- 多様な学びを提供するため、ICTを活用した遠隔教育の導入を検討する。

【令和8年度以降の考え方のポイント】

- 総合学科の意義
- 特色ある専門教科・科目の設置
- 普通科とともに専門学科も学ぶことができることから中山間地域の高校に適切

### 3 産業界等からの主な意見

#### <多数共通>

- 人材が不足。(建設業、介護・福祉業、製造業、飲食業、農業 他)
- 高校での資格取得よりも、本人の資質ややる気を重視する。資格は入社してから取ればいい。
- 挨拶など。社会で生活するための基本が重要。
- 専門高校では、資格や技能の前に、その業界自体について理解しておいてほしい。

#### <設計・建築業>

- 今の高校教育レベルでは採用しがたい。CAD くらい使えるように。

#### <農業>

- 近年は家の農家を継ぐ形態は減っており、大きな農業法人に就業する形態が増えている。
- 経験を積んでおくことが重要であり、できるだけ少人数の実習の機会が多いことが望ましい。

#### <水産業>

- 漁業関係の勉強だけではつぶしが効かないので、簿記やパソコン実務も学ぶべき。
- 海技士は沖合漁業だけに必要な資格であり、高校で取得する必要は特にない。
- 海技士の資格取得を進めてほしい。そのための専攻科の設置も検討してほしい。

#### <飲食業>

- 料理は化学や芸術系の生徒が伸びる分野でもある。(飲食業)
- 技術を伴った調理人は少ないが、高校に学科を設置すれば解決されるものではない。(飲食業)

#### <商工団体(商工会議所、商工会連合会、産業教育振興会、経済同友会 等)>

- 理数系人材が不足。
- 世の中は挑戦することや新しいことを評価する風潮にあるが、会社には様々な人材が必要であり、昔から続いていることや、地味なことでもじっくり取り組める人材なども大切。
- 普通科でも専門の授業が受けられるとよい。
- 挫折から立ち上げられる力を養うことも大切。
- 職場体験を義務化すべき。
- Society5.0 を見据え、ICT や IoT などデジタル革新に対応するカリキュラムの拡充を。
- 鳥取県の豊かな農産物を活かし、地域活性化につなげるための調理の分野を望む。
- 従来の一次・二次産業対応型から、現状の半数以上を占める第三次産業向けの人材育成を強力に進めること。
- 県内の実業高校には、最近の若い人に興味のある分野がない。
- 働く場が県内に少ない分野の高校だと、卒業後に県外へ出て行ってしまう。
- 国際的に地元をPRできる観光分野が必要。
- 鳥取ならではの、鳥取にしかない分野の学科があるといい。まんが、星取県、子育てなど。

#### <その他>

- 専門学校では必要な座学は県内で共有できるようにして一定の学力を身に付けつつ、実験・実習などの時間を十分に行う学科と進学するコースを設置し、大学進学も可能にしてはどうか。(大学)
- 技術者養成の実業系専攻科を新たに検討すべきと考える。若者の防止措置という側面もある。(議会)

# 【資料①】

## 鳥取県立高校全日制専門学科・総合学科の組等状況

### 1 全日制専門学科

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
鳥取商業 高校 (商業)	◆専門人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビジネス教育、上級資格取得、部活動を鳥商教育の3本柱とし、地域の産業経済界をリードし活躍する人材の育成を目指す。</li> <li>○鳥商教育の集大成として「鳥商デパート」を実施。</li> <li>○県内唯一の商業学科単科高校。</li> <li>○令和3年度から単位制高校。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■マネジメント能力と経営感覚、経済活動全般に関する専門知識、ビジネス社会で活躍する目的意識を併せ持った地域社会を支える人材育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>→商業学科単独校の強みを活かし、キャリア教育、アクティブ・ラーニング、グローバル教育等を商業教育と結び付けながら実践</li> <li>→鳥商教育の集大成であり、生徒が主体的に企画・運営・仕入・販売・決算を行う「<b>鳥商デパート</b>」を実施</li> <li>→令和2年度から、経済のグローバル化に対応する人材育成のため、<b>アメリカ・バーモント州エセックス高校</b>（ビジネスコースあり）との<b>国際交流を開始</b></li> </ul> </li> </ul>
鳥取工業 高校 (工業)	◆専門人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ほぼ100%に近い就職内定率。製造業を中心とした進路先に内定しており、工業高校として地域を支える技術者の育成に大きく貢献。</li> <li>○鳥取テクノヒルズ（産官学金の連携組織56社加盟：共同受発注や研究開発を行う）へ加盟することで、近隣企業との連携を強固にし、講師派遣等の協力を得ている。</li> <li>○離職率は全国平均より低く推移しており、企業への定着率は高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東部地区工業学科の基幹校として、産業界のニーズに応じた深い知識・技術を身につけた技術者を地域と共に育成（「地域を支える人材（材）、技術者の育成」）               <ul style="list-style-type: none"> <li>→地域産業界の社会人講師等との連携により、学力の定着から資格取得へのチャレンジ、ものづくりに係る競技大会等への参加を支援</li> <li>→数ヶ月の間、学校の授業と企業での実習を並行して学ぶ「<b>鳥工版デュアルシステム（企業実習）</b>」の実施</li> <li>→学習成果を活用して地域へ貢献する活動により、ものづくりへのニーズを知り、ものづくりに携わる人としての倫理観を育成</li> </ul> </li> </ul>
鳥取湖陵 高校 (農業) (工業) (家庭) (情報)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ICT活用教育</li> <li>◆専門人材育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全国でも少ない情報学科を有する県内唯一の高校。情報学科入学生は入学時にiPadを購入し、授業のみならず家庭学習等の場面で幅広くiPadを活用。</li> <li>○授業における身近なツールとしてiPadを使うことで、授業に関心を持ち主体的に取り組むようになった生徒の割合が向上。</li> <li>○<b>農業・工業・家庭・情報の4学科からなる総合選択制高校。</b></li> <li>○多面的な取り組み（インターシップ、資格取得、外部人材活用事業、湖陵フェスタ等）でキャリア教育を推進。</li> <li>○多岐にわたる進路選択と高い就職内定率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■県内唯一の<b>情報学科</b>を中心としたICT活用教育の充実</li> <li>■協同学習の理念基盤に、アクティブな学び方の推進を図り、iPadの利用について、より積極的に推進する</li> <li>■上記の取組みを進めるために、教員へのiPad貸与台数を増やす。そのために必要な措置の検討を進める。</li> <li>■複数学科を有する強みを生かした地域産業の振興、地域の活性化に資する人材の育成               <ul style="list-style-type: none"> <li>→総合選択制などの利点を生かした取組の充実</li> <li>→地域資源を生かした教育実践と学校施設の活用と開放</li> <li>→各種資格の取得を支援</li> </ul> </li> </ul>

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
智頭農林 高校 (農業)	◆専門人材育成 ◆地域連携	○ <b>全国でも数少なく県内唯一となる森林科学科</b> をはじめ、ふるさと創造科(平成28年度設置)、生活環境科の3科を設置。 ○鳥取県スーパー農林水産業士育成など、知事部局や県関係機関、智頭町及び地元産業界と連携した林業人材育成の取組を推進。	■ <b>少人数指導(学級)</b> を生かした専門教育と特別支援教育 →スーパー農林水産業士制度を活用した将来の地域を支える農林業人材を育成 →特別な支援が必要な生徒の自立と社会参加を目指した「高校における通級による指導」の調査・研究を行うなど多様な生徒に対応 ■ <b>専門科目における地域連携</b> を取り入れた教育内容の推進 →地元保育園、高齢者福祉施設、中学生との交流事業(藍染め、花壇整備など)の実施 →校内や地域で生産された農産物加工品の販売( <b>ちのりんショップ</b> )や生徒が制作した格子や藍染めのれんを地域住民、事業者等に寄贈
倉吉農業 高校 (農業)	◆基礎学力向上 ◆専門人材育成 ◆県外生徒募集	○ <b>中国地方で唯一の文部科学省指定農業経営者育成高等学校。男子及び女子寮</b> を備え、特色のある生物科、食品科、環境科の3科6コースを有している。 ○生物科と環境科の1年生は1年間の入寮を義務化し、決められた日課の中、ルールとマナーを学び、適切な人間関係の構築が期待できる農業高校。 ○全国的に評価の高いお米をはじめ、本校の生産物や加工品を校内外のイベントや地域に出かけ販売している。 ・R1 全国お米日本一コンテスト入賞 ※高校の入賞は全国初 ・R1 全国農業高校お米甲子園金賞 ※5年連続金賞	■ <b>朝の時間中心に全校で取り組む基礎学力の伸長</b> →基礎力診断テストに加えて学校独自の基礎学力テスト及び朝学習を定期的実施している。寮では日課の中に自主学習の時間も設け、ICT教材を活用しながら学力の定着を図っている ■ <b>鳥取県の農業を担う専門人材の育成</b> →スーパー農林水産業士等の各種資格取得を推進し、将来の鳥取県を支える人材の育成を図る →ICT 機器を活用した <b>スマート農業</b> の導入による最先端の学びの実践 ■ <b>学校の特色や強みを生かした県外生徒の獲得</b> →新商品の開発や県内外各地での販売実習の実施によって学校の付加価値を高め、大都市圏での移住定住イベントに参加することで、県外生徒獲得をし、学校の活性化を図る
倉吉総合 産業高校 (工業) (商業) (家庭)	◆専門人材育成 ◆スポーツ・文化芸術活動	○ <b>工業(機械・電気)、商業、家庭の3学科からなる総合選択制</b> 。専門教科を活かして、大学や専門学校への進学を目指すことも可能。 ○ほぼ100%に近い就職内定率。 ○自転車競技、陸上競技、カヌー等の部活動で全国上位の成績。また吹奏楽、ビジネス研究、美術など文化部活動も盛ん。	■ <b>中部地区唯一の工業)、商業、家庭の3学科を有する専門高校</b> として、今後の地域産業を支える人材を育成 →仕入から販売まで、生徒が企画・運営する <b>チャレンジショップ「くらそうや」</b> や地元企業等と連携した活動など様々な取組を各科で実施 →外部講師による技能指導等も行い、各種資格の取得を支援 ■ <b>競技実績のあるスポーツを軸とした新たな特色・魅力づくり</b>

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
			→中学生を対象とした長期休業中の部活動体験を実施
米子南高校 (商業) (家庭)	◆専門人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○商業学科・家庭学科のある専門高校。県立では唯一の<b>調理師養成施設（調理コース）</b>を設置。</li> <li>○商業学科では、2・3年時に進路希望に応じて4つの分野（マーケティング、会計、情報ビジネス、情報システム）に分かれ専門性を高める。</li> <li>○家庭学科環境文化コースでは、衣・食・保育・環境など生活に役立つ知識・技術を学ぶ。</li> <li>○家庭学科調理コースでは、調理師養成施設として料理や製菓を基礎から少人数で学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■西部地区を中心とした地域を支える専門人材の育成</li> <li>→土日を利用した簿記・情報処理等の資格取得のための学習会</li> <li>→地域在住の専門家を講師に招いた授業の実施</li> <li>→地域課題の解決、地域資源を活かした商品開発等をテーマとした課題研究等の実施</li> <li>→商業学科・家庭学科3年生の課題研究を中心に取り組みや研究の成果を発表する「米南みつばち学習発表会」を開催</li> </ul>
米子工業高校 (工業)	◆専門人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工業分野のうち、機械系、電気系、化学系、土木系、建築系の5分野が設置され、県内唯一環境分野を学ぶことができる<b>県内最大規模の工業単科高校</b>。</li> <li>○100%の就職希望者内定率。（令和1年度実績）。</li> <li>○就職希望者の内、地元（島根県東部を含む）就職者の割合 56.5%（令和1年度実績）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■西部地区工業学科の基幹校として、産業界のニーズに応じた深い知識・技術を身に付けた人材の育成</li> <li>→社会人講師等の指導による資格取得へのチャレンジ、ものづくりに係る競技大会等への参加支援</li> <li>→インターンシップ・企業研修の充実</li> <li>→ものづくりの技術を活かした貢献活動で、地域を愛する気持ちとものづくりの意義について理解した人材を育成</li> <li>→産業界をリードする社会人として、規範意識が高い人材を育成</li> <li>→卒業後の定着指導で、高い定着率を維持</li> </ul>
境港総合技術高校 (水産) (工業) (福祉)	◆専門人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>3学科5科（海洋科、食品・ビジネス科、機械科、電気電子科、福祉科）を有する総合選択制高校</b>。</li> <li>○介護福祉士(H24 から R1 まで8年連続合格率100%)、小型船舶操縦士、海技士、電気工事士、自動車整備士など特有の資格取得が可能。</li> <li>○スーパー農林水産業士の認定を目指し、多くの現場体験実習を取り入れ、水産業界を支える人材を育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■県内唯一の特色ある学科を中心とした地域を担う専門人材の育成</li> <li>→<b>実習船若鳥丸</b>の保有（水産学科海洋科）、<b>自動車整備士養成課程</b>（工業学科機械科）、<b>介護福祉士養成課程</b>（福祉科）</li> <li>→スーパー農林水産業士制度を活用した将来の地域を支える人材を育成</li> <li>→資格取得に向けた放課後講習</li> <li>→専門技術者を招聘した実習</li> </ul>

## 2 全日制総合学科

学校名	重点項目	学校の現状、特色等	重点項目を踏まえた特色化・魅力化の取組
青谷高校 (総合学科)	◆地域連携	<p>○文理探究、ビジネス・情報、福祉・保育・生活科学及び芸術文化の4系列を持つ総合学科。</p> <p>○地域との連携事業を推進。青谷地域の自然・歴史・文化・産業を学ぶ「青谷学」を2年次で全員が履修し、3年次の「課題探究」と連動した探究活動を行っている。</p> <p>&lt;主な専門科目&gt; 生活と福祉、リビングデザイン、情報デザイン、造園技術、プレゼンテーション</p>	<p>■地域と連携した教育の推進</p> <p>→青谷上寺地遺跡での発掘体験や青谷木綿の栽培・タペストリー制作など「青谷学」「課題探究」での地域に根差した探究活動を中心に地元意識を醸成し、地域を支える人材を育成</p>
米子高校 (総合学科)	◆アクティブ・ラーニング推進 ◆地域連携	<p>○2年次から6つの系列(自然科学、国際文化、情報ビジネス、生活福祉、健康スポーツ、工芸デザイン)に分かれる総合学科。</p> <p>○<b>アクティブ・ラーニング推進校</b>として実践した「学びの文化祭 inYonago」の終了。</p> <p>○米子市中心市街地の活性化など、地域の課題をテーマに地域住民と関わりながら解決策を提言する「<b>米×米プロジェクト</b>」を実施。</p> <p>&lt;主な専門科目&gt; 植物バイオテクノロジー、マーケティング、子どもと文化、表現メディアの編集と表現</p>	<p>■大学等への進学希望者の増加に対応した生徒の個性・能力の伸長と、入試に対応できる力の育成</p> <p>→各系列、教科におけるICT機器の授業活用による授業改革の実践</p> <p>→Find!アクティブラーナーによる授業研究</p> <p>→ICT機器を活用した授業研究会</p> <p>■地域連携を核としながら、総合学科高校として「生徒の多様な進路」を実現</p> <p>→米×米プロジェクト、文化芸術活動<b>(総合美術展、ダンスフェスティバル等)</b>や農業等を通じた地域との連携・交流</p>
日野高校 (総合学科)	◆キャリア教育 ◆地域連携	<p>○4つの系列(総合進学・情報ビジネス・アグリライフ・ヒューマンケア)による総合学科。</p> <p>○大学・短大等への進学から就職まで、幅広く対応できる教育課程。</p> <p>○進学を目指す生徒に対応した<b>双葉寮</b>における課外学習指導の充実。</p> <p>○地域の資源を活用したキャリア教育の充実と地域連携</p> <p>○地域を学びの場とした教育活動等を実践し、その成果を発表する「学びの成果発表会」の開催。</p> <p>○日野町の負担により「<b>日野高校魅力向上コーディネーター</b>」を1名配置。</p> <p>&lt;主な専門科目&gt; 生活と福祉、フードデザイン、情報デザイン、造園技術、プレゼンテーション</p>	<p>■これからの社会の中で逞しく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成</p> <p>『OFFICIAL HINOKO イズム』</p> <p>→「産業社会と人間」、「職場体験」、「課題研究」等で日野郡の資源・人財を活かした教育活動の充実と成果発表</p> <p>①生徒自らが指導者・発言者となる教育活動</p> <p>②すべての大人を指導者とする教育活動</p> <p>③日野郡全体を学びのフィールドとする教育活動</p> <p>④学びの成果発表会の充実</p> <p>→大学・短大等の進学を目指す生徒の進路希望を実現(夜間学習会実施)</p> <p>→最先端技術や高校生視点の地域活性化策の充実(<b>eスポーツを活用した高齢者の身体・認知機能の向上等</b>)</p> <p>→県外生徒の募集(メディア・インターネット等を活用した情報発信等)</p>

## 【資料②】

### 本県の専門学科高校における大学科及び小学科の概要について

令和2年12月22日

高等学校課

大学科	小学科	概要
農業学科＞		生物生産、園芸、食品加工をはじめ、バイオテクノロジー、コンピュータを利用した流通、自然環境保全など幅広い内容を学ぶ。
	食品システム	野菜の生産、食品の加工、流通などについての知識・技術を学習し、ものづくりをとおして、時代に対応できる幅広い資質を身につけた人材を育成する。
	緑地デザイン	庭やガーデニング・草花栽培や装飾方法、植物バイオテクノロジーに関する知識と技術を習得し、心豊かな生活空間の創造と緑地環境の保全を担う人材を育成する。
	ふるさと創造	農業を基盤とした学習を通して、ふるさとを愛し、将来の地域を支え、地域の農業と福祉を支える人を育成する。
	森林科学	森林と木材の有効利用に関する知識と技術を習得し、林業及び地域産業の発展に貢献できる能力と態度を備えた人を育成する。
	生活環境	衣食住など生活と住まいを取り巻く環境に関する知識と技術を習得し、心豊かな生活が創造できる能力と態度を備えた人を育成する。
	生物	牛や豚等の家畜の飼育やその他の動物とふれ合う中で、畜産の知識及び技術を習得し、命を大切にすることを育成するほか、野菜と果樹の栽培をとおして、園芸の知識及び技術を習得し、農業や関連産業で活躍・貢献できる人材を育成する。
	食品	原材料の生産から食品の製造に関する知識や技術を習得し、その品質を向上させるとともに、安心・安全な食品を製造するための能力や態度を育成する。また、加工食品等のマーケティングについて総合的に学習し、より一層の付加価値を付けるとともに、安全に流通させるための能力や態度を育成する。
環境	環境の保全、循環型社会の形成、そして資源の有効活用に関する知識や技術について幅広く学び、地域との交流を図り社会に貢献できる人材を育成するほか、快適な生活空間を創造するために草花、造園に関する知識や技術について幅広く学び、地域貢献をとおして花や緑豊かな環境を創造できる人材を育成する。	
工業学科＞		ものを作ったり、機械を制御したりすることを学ぶ各科やコースに応じた専門的な知識や技術を学び、将来、工業技術者として産業界等で活躍できる能力を身に付ける。
	機械	機械に関する基本的な知識や技術、また、コンピュータ制御による機械加工、金属加工によるものづくりなどの先端技術を学習し、機械技術者としてあらゆる分野で活躍できる人材を育成するほか、自動車整備士の養成を行う。
	電気	電気・電子・情報に関する知識・技術を習得するとともに、利用技術やものづくりなどを幅広く学習し、電気工事をはじめ広い分野で活躍できる人材を育成する。
	電気電子	生活に欠かせない「電気をつくる・役立てる技術」を基礎から学び、ものづくりなどを通して、社会に必要とされる人材を育成する。
	環境エネルギー	電気・電子の基礎・環境化学やエネルギー管理等を学ぶ。
	制御・情報	電気・機械・情報の基本的な知識・技術を学び、ものをつくり、制御する技術と、情報を伝える技術を習得するほか、プログラムの開発やロボットを製作し制御する研究を行うなど、より実践的な技術を学ぶ。
	電子機械	機械と電気についての知識・技術を幅広く学習し、ものづくりや資格取得をとおして、時代に対応できる幅広い資質を身につけた人材を育成する。
	情報電子	コンピュータのソフト・ハード・プログラミング、電子回路、マイコン制御、電子工作等、ICT、IoTの基礎を学ぶ。
	建設工学	建設技術者を育成するために必要な、実習・体験学習・製図・測量・CAD・模型製作などを学習し、快適で夢のあるまちづくりの出来る技術者を育成する。
	建設（土木）	都市基盤に関わる測量（土地のサイズや位置の測定）や設計、施工技術について学ぶ。
建設（建築）	建築物に関わる設計・製図、木材加工や、それらに付帯する設備について学ぶ。	

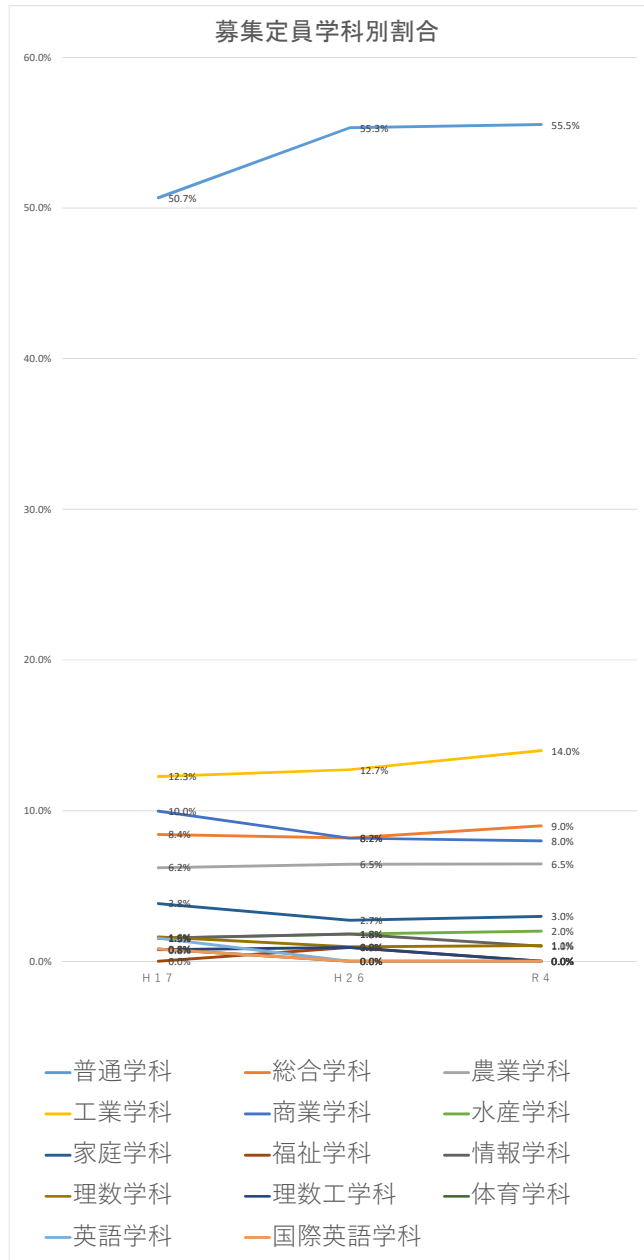
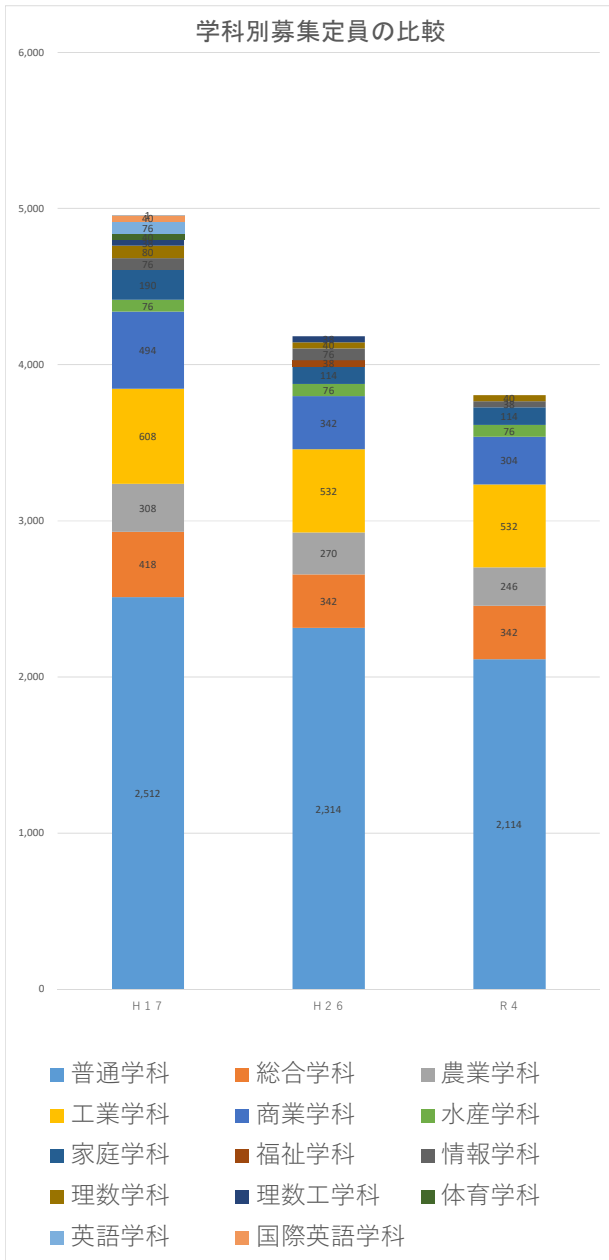


大学科	小学科	概要
水産学科 >	海を科学的に見つめ、航海の技術、水産資源の活用、マリンスポーツ、食品加工などについて学ぶ。	
	海洋	海洋関連の資格を取得して、地元の水産・海洋関連産業に貢献できる人材を育成するほか、乗船実習やマリンスポーツ実習などにより、豊かな人格形成と船舶・漁業・潜水に関する技術を習得する。
	食品・ビジネス	水産食品を主とした専門的な知識・技術を身につけるとともに、ビジネス分野の学習を通して、経営感覚を養い、地元で貢献できる産業人を育成する。
商業学科 >	販売やサービス、経理・営業・事務・情報処理などビジネスについて専門的な知識を学ぶ。	
	商業	企業の経済・経営活動や財務諸表、情報処理に関する知識・技術のほか、コンピュータグラフィックスに関する知識と技術について学習し、経済・産業分野で広く活躍できる人材を育成する。
	ビジネス	ビジネスに関する専門的な知識や技術を習得するとともに、体験的実践的学習をととしてコミュニケーション能力を養い、人間力を高める。
	ビジネス情報	マーケティングや簿記、情報処理などの基礎学習の下、ビジネスにおいて社会に出て働く上で解決しなければいけない問題や、会社から与えられる仕事を、個人や仲間と協働しながら身に付ける。
家庭学科 >	家庭生活に関する知識と技術を総合的に学び、豊かな人間性を養い、家庭や知識社会の生活関連産業、福祉分野などで活躍する能力を培う。	
	人間環境	福祉や保育、衣食住、消費生活など家庭に関する様々な知識・技術を幅広く学習し、心豊かな生活を創造し、地域の担い手となる資質を身につけた人材を育成する。
	生活デザイン	衣食住や保育、家庭看護や介護に関する知識・技術を習得し、各分野に関する諸課題を解決する能力を養う。
	生活文化（環境文化）	衣・食・保育・環境など生活に役立つ知識・技術を習得し、家庭や地域に貢献できる人材を育成する。
	生活文化（調理）	調理師養成施設として調理を基礎からしっかり学び、調理のプロを育成する。
看護学科 >	看護に関する専門的な知識や技術を専門的に学びながら、生命尊重の考えや、健康を保持・増進させるための態度を身に付ける。	
	看護	看護に関する基礎から実際の福祉施設や病院での看護実習による実践的知識・技能を養い、最短5年間で看護師資格を取得するほか、保健師、助産師、養護教諭などの人材を育成する。
情報学科 >	情報についての基礎力・基本的な知識や技術を学び高度情報通信社会の中で適正に活用できる能力を身に付ける。	
	情報科学	コンピュータシステムの構築・運用やコンピュータグラフィックスの制作など、情報に関する技術を総合的に学習し、高度情報化社会に対応できる資質を身につけた人材を育成する。
福祉学科 >	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を学び、「家庭や地域を支える」人材を養成するとともに、社会福祉関連の職業で活躍する能力を培う。	
	福祉	福祉に関する専門的な知識・技術を身につけながら、さまざまな実習を通して幅広く福祉の心を持って社会に貢献できる人材の育成を育成する。

【資料③】

県立高等学校（全日制）における学科設置状況

【学級数】					【募集定員】					【募集定員学科別割合】				
学科名	H17	H26	R4	増減	学科名	H17	H26	R4	増減	学科名	H17	H26	R4	増減
普通学科	63	58	53	-10	普通学科	2,512	2,314	2,114	-398	普通学科	50.7%	55.3%	55.5%	4.9%
総合学科	11	9	9	-2	総合学科	418	342	342	-76	総合学科	8.4%	8.2%	9.0%	0.6%
農業学科	9	8	8	-1	農業学科	308	270	246	-62	農業学科	6.2%	6.5%	6.5%	0.2%
工業学科	16	14	14	-2	工業学科	608	532	532	-76	工業学科	12.3%	12.7%	14.0%	1.7%
商業学科	13	9	8	-5	商業学科	494	342	304	-190	商業学科	10.0%	8.2%	8.0%	-2.0%
水産学科	2	2	2	0	水産学科	76	76	76	0	水産学科	1.5%	1.8%	2.0%	0.5%
家庭学科	5	3	3	-2	家庭学科	190	114	114	-76	家庭学科	3.8%	2.7%	3.0%	-0.8%
福祉学科		1	1	1	福祉学科		38		0	福祉学科	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
情報学科	2	2	1	-1	情報学科	76	76	38	-38	情報学科	1.5%	1.8%	1.0%	-0.5%
理数学科	2	1	1	-1	理数学科	80	40	40	-40	理数学科	1.6%	1.0%	1.1%	-0.6%
理数工学科	1	1		-1	理数工学科	38	38		-38	理数工学科	0.8%	0.9%	0.0%	-0.8%
体育学科	1			-1	体育学科	40			-40	体育学科	0.8%	0.0%	0.0%	-0.8%
英語学科	2			-2	英語学科	76			-76	英語学科	1.5%	0.0%	0.0%	-1.5%
国際英語学科	1			-1	国際英語学科	40			-40	国際英語学科	0.8%	0.0%	0.0%	-0.8%
合計	128	108	100	-28	合計	4,956	4,182	3,806	-1,150	合計	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%



普通科・専門学科・総合学科毎の入学状況(全日制)

学校名	令和2年度入試		H31年度入試		H30年度入試		H29年度入試		H28年度入試		5年平均				
	募集 生徒数	入学者	募集 生徒数	入学者	募集 生徒数	入学者	募集 生徒数	入学者	募集 生徒数	入学者	募集 生徒数	入学者	募集 生徒数 割合	入学者 割合	充足率
鳥取東	280	281	280	284	280	284	280	283	280	283					
鳥取西	280	282	280	281	280	281	280	283	280	283					
岩美	114	58	114	84	114	51	114	58	114	85					
八頭	240	244	280	267	280	266	280	271	280	281					
倉吉東	200	200	200	184	200	197	200	201	200	193					
倉吉西	120	120	120	120	120	117	120	120	120	122					
鳥取中央育英	160	126	160	151	160	160	160	153	160	151					
米子東	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320					
米子西	280	279	280	280	320	320	320	321	320	322					
境	200	190	200	172	200	200	200	202	200	202					
普通科計	2,194	2,100	2,234	2,143	2,274	2,196	2,274	2,212	2,274	2,242	2,250	2,179	56.1%	58.9%	96.8%
鳥取商業	190	169	190	184	190	192	190	165	190	193					
鳥取工業	152	123	152	137	152	147	190	168	190	161					
鳥取湖陵	190	165	190	157	190	186	190	175	190	183					
智頭農林	68	30	80	53	80	41	80	45	80	35					
倉吉農業	102	73	114	93	114	86	114	76	114	86					
倉吉総合産業	152	135	152	145	152	142	152	153	152	150					
米子南	152	123	152	135	152	151	152	145	152	153					
米子工業	190	175	190	192	190	188	190	190	190	190					
境港総合技術	190	140	190	151	190	157	190	151	190	189					
専門学科計	1,386	1,133	1,410	1,247	1,410	1,290	1,448	1,268	1,448	1,340	1,420	1,256	35.4%	34.0%	88.4%
青谷	114	57	114	91	114	68	114	86	114	46					
米子	152	152	152	152	152	152	152	152	152	152					
日野	76	27	76	29	76	51	76	44	76	58					
総合学科計	342	236	342	272	342	271	342	282	342	256	342	263	8.5%	7.1%	77.0%
全体	3,922	3,469	3,986	3,662	4,026	3,757	4,064	3,762	4,064	3,838	4,012	3,698	4,030	3,743	92.2%

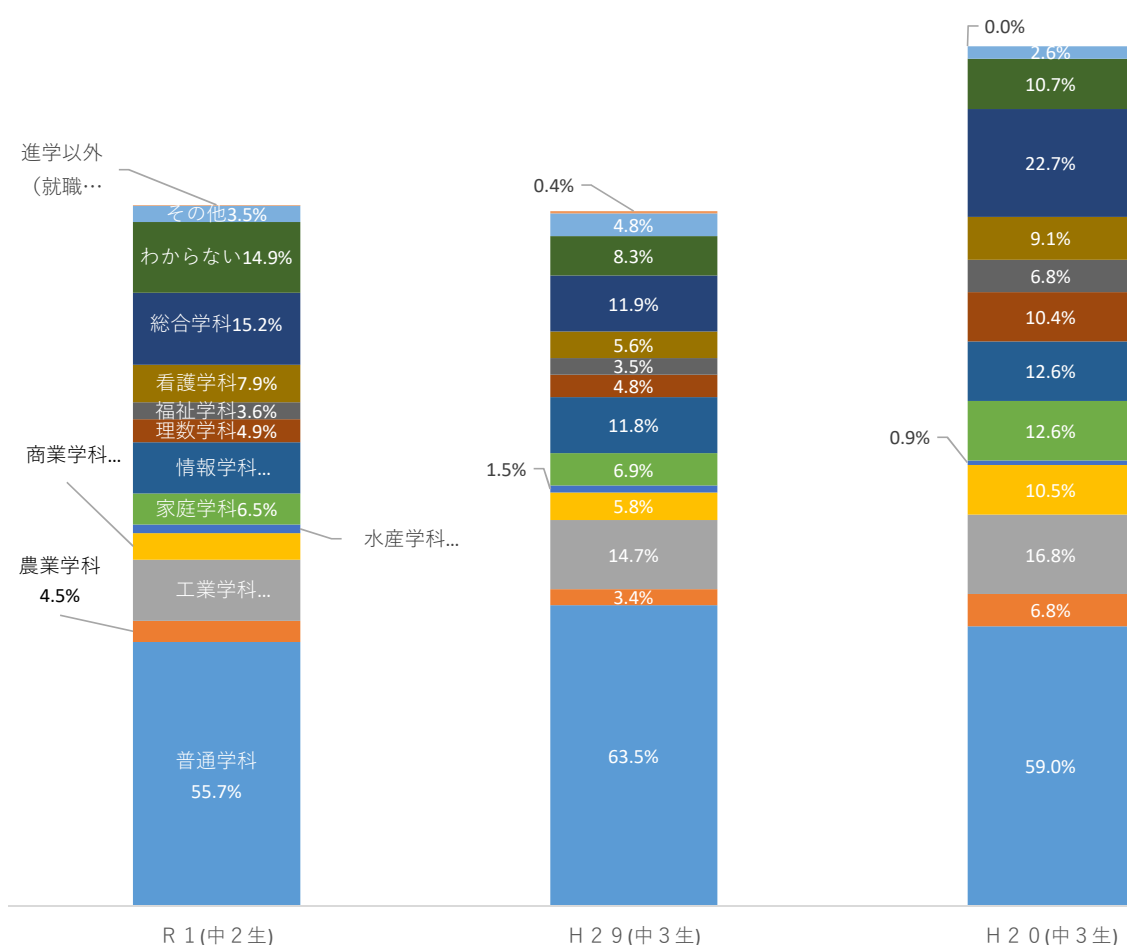
# 【資料⑤】

## 中学生の高校への進学希望について

学科名	R 1		H 2 9		H 2 0	
	希望者数	割合	希望者数	割合	希望者数	割合
普通学科	783	55.7%	866	63.5%	968	59.0%
農業学科	63	4.5%	46	3.4%	112	6.8%
工業学科	181	12.9%	200	14.7%	275	16.8%
商業学科	79	5.6%	79	5.8%	173	10.5%
水産学科	26	1.9%	20	1.5%	15	0.9%
家庭学科	92	6.5%	94	6.9%	207	12.6%
情報学科	152	10.8%	161	11.8%	206	12.6%
理数学科	69	4.9%	65	4.8%	171	10.4%
福祉学科	50	3.6%	48	3.5%	112	6.8%
看護学科	111	7.9%	76	5.6%	149	9.1%
総合学科	214	15.2%	162	11.9%	373	22.7%
わからない	210	14.9%	113	8.3%	175	10.7%
その他	49	3.5%	66	4.8%	43	2.6%
進学以外（就職など）	2	0.1%	6	0.4%	0	0.0%

※R 1 調査は全県中学校の約30%の2年生対象

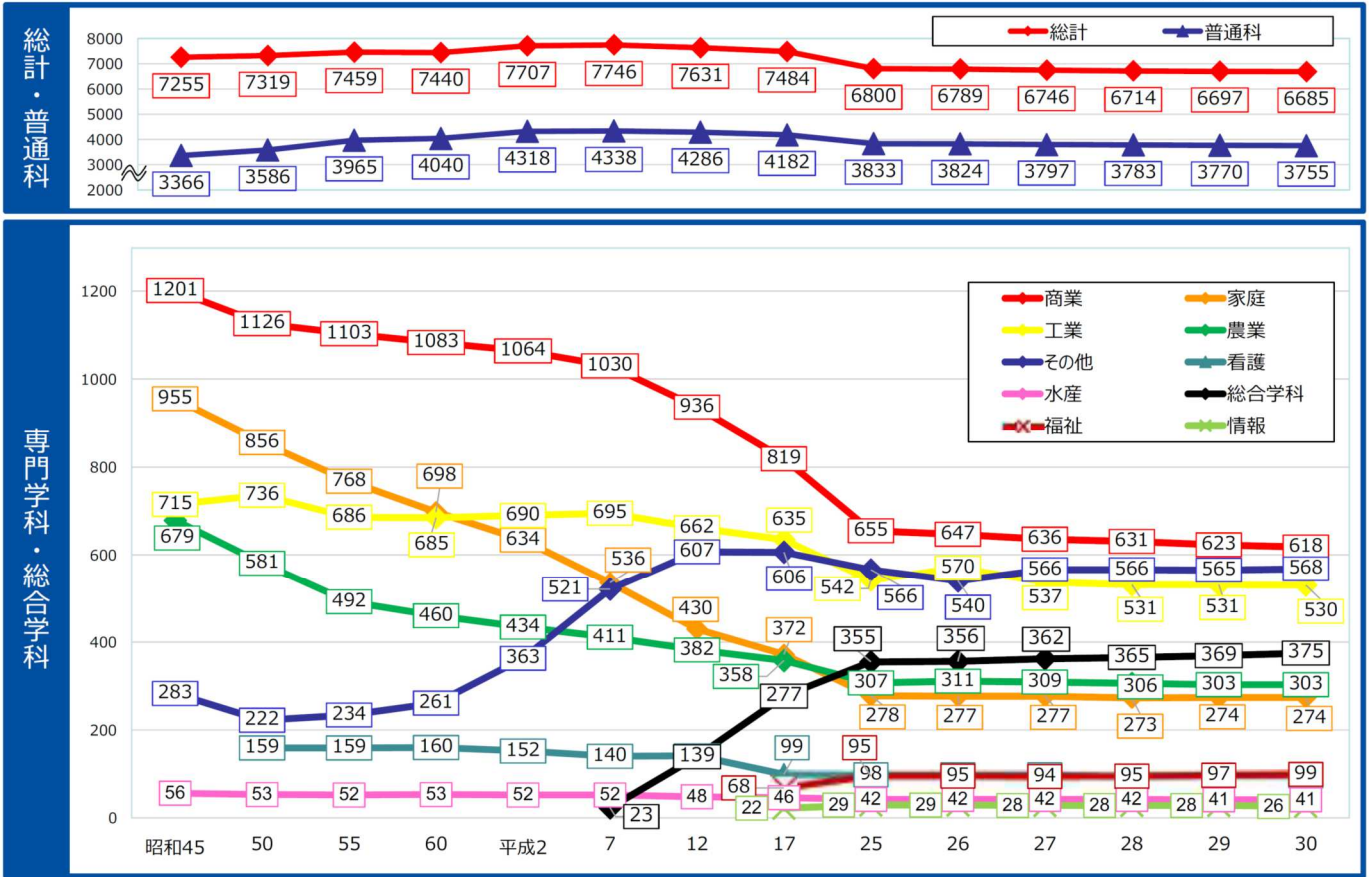
H 2 9、20 調査は全県中学校約30%の3年生対象（複数回答）



全国の高等学校の学科等の動向

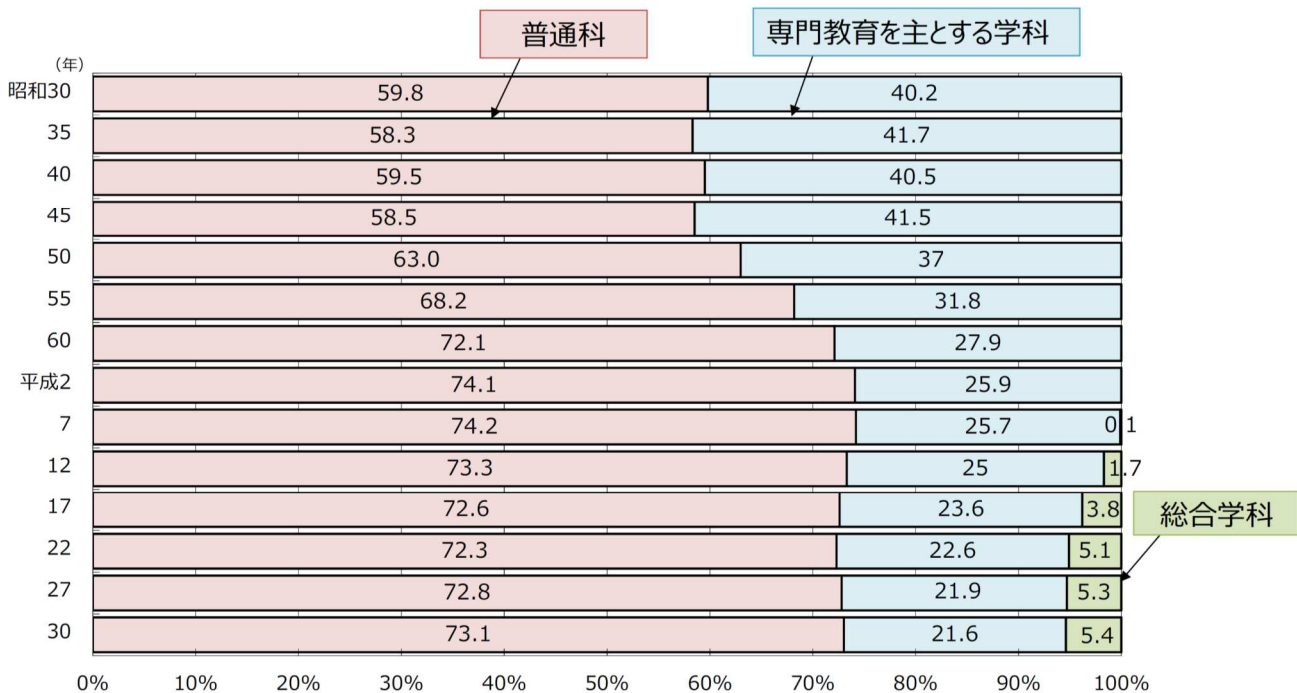
1 高等学校の学科数（学科別）の推移

(全日制・定時制課程)



2 高等学校の生徒数（学科別・構成割合）

○ 専門教育を主とする学科の比率は年々減少。普通科は最近30年間、ほぼ一定（約7割）で推移。



※全日制・定時制課程の生徒数の割合。  
 ※総合学科は平成6年度より制度化。

### 3 都道府県立高等学校の大学科別構成比（令和2年度）

区分	総定員	普通科及び専門教育を主とする学科(普通系)								専門教育を主とする学科(職業系)										総合 学科	
		普通 科	専門教育を主とする学科(普通系)							小計	農業	水産	工業	商業	家庭	看護	福祉	情報	その 他		小計
			理数 関係	語学 関係	国際 関係	体育 関係	芸術 関係	その 他													
前年	674,040	65.1	1.1	0.3	0.7	0.3	0.4	1.2	69.0	4.3	0.5	10.0	6.6	1.1	0.2	0.3	0.1	0.1	23.3	7.7	
全国	658,501	64.9	1.2	0.3	0.7	0.3	0.4	1.2	68.9	4.3	0.5	10.0	6.6	1.1	0.2	0.3	0.1	0.1	23.4	7.7	
北海道	28,840	68.1	0.8	0.4		0.3			69.6	4.6	1.2	8.0	8.0	0.4	0.4	0.1			22.9	7.5	
青森	7,905	56.2	0.5	0.5		1.5		0.4	59.1	7.1	1.3	13.7	8.0	1.5	0.5				32.3	8.6	
岩手	8,960	47.3				0.4		9.8	57.6	5.8	0.9	14.3	8.0	1.8					30.8	11.6	
宮城	13,280	64.5	1.5	0.6		0.9	0.3	0.3	68.1	5.4	1.8	9.6	6.3	0.9	0.3	0.3			24.7	7.2	
秋田	6,860	64.1	3.1		1.0				68.2	7.7	1.0	14.3	4.1	0.5		0.5	0.5		28.6	3.2	
山形	6,720	50.0	3.0		1.8	1.2	0.6		56.5	6.0	1.2	17.3	4.8	1.2	0.6		0.6		31.5	11.9	
福島	13,230	48.6	0.9	0.3	1.8	0.3	0.3	2.4	54.6	7.9	1.2	15.1	10.9	0.3					35.4	10.0	
茨城	19,070	67.8	0.6		0.4		0.8		69.6	3.6	0.6	10.1	7.6	1.3	0.2	0.2			23.5	6.9	
栃木	11,675	58.6	0.3			0.7			59.6	6.2	0.2	12.0	9.3	2.4		0.8			30.8	9.6	
群馬	10,880	57.8	1.4		0.7	0.4	0.4		60.7	6.6		14.0	8.5			0.4			29.4	9.9	
埼玉	35,320	73.1	0.6	1.0	0.1	0.5	1.0	0.1	76.4	2.8		7.6	6.9	0.9	0.2	0.2			18.7	4.9	
千葉	30,320	79.2	1.1		1.1	0.1	0.1		81.5	3.0	0.5	4.1	4.1	0.8	0.1	0.1	0.3		13.1	5.4	
東京	41,452	77.6			0.7	0.2	0.4		78.9	1.5		7.8	4.4	0.5		0.1		1.3	15.5	5.6	
神奈川	38,746	83.6			0.5	0.3	0.4		84.7	1.6	0.4	5.4	1.9	0.1	0.2	0.5		0.6	10.7	4.5	
新潟	13,670	60.9	1.8	0.6	0.6		0.3	1.2	65.3	5.0	0.6	10.8	6.7	0.9					23.9	10.8	
富山	6,662	54.4			2.3			3.6	60.2	2.6	0.9	16.1	10.2	1.8	0.6	0.5			32.6	7.2	
石川	7,080	65.0	1.7			1.1		0.3	68.1	2.3		11.9	6.8		0.6	0.6		0.6	22.6	9.3	
福井	4,874	56.4	2.0		4.4			0.8	63.6	5.4	1.2	14.0	12.8	2.5		0.5			36.4		
山梨	5,130	60.0	1.6					2.4	64.0	4.1		11.7	2.4						18.2	17.7	
長野	14,200	63.9	2.5		1.7	0.3	0.3		68.7	7.0		9.9	7.6	1.1					25.6	5.6	
岐阜	13,026	54.8	2.1				0.6		57.5	7.4		12.4	10.6	4.4		0.8	0.6		36.2	6.3	
静岡	19,020	60.7	2.1	0.2	0.6		0.6		64.2	4.2	1.1	10.5	9.5	0.2		0.6			26.1	9.7	
愛知	38,920	68.0			0.5	0.3	0.2		69.1	3.0	0.4	9.9	6.8	2.3	0.2	0.4			22.9	8.0	
三重	11,400	54.7	2.1	1.4	1.1	0.7		0.7	60.7	4.9	0.7	13.0	8.4	2.8	0.4	1.1	0.7		31.9	7.4	
滋賀	9,800	67.8	0.8			0.4	0.8		69.8	4.1		7.3	5.3	0.8					17.6	12.7	
京都	10,365	76.9	1.2			0.4		7.1	85.6	3.6	0.9	3.6	2.8			0.3	0.8		11.9	2.5	
大阪	35,380	62.4	1.0		2.9	0.5	0.8	9.8	77.5	1.1		5.5							6.7	15.9	
兵庫	27,120	70.6	1.5		1.0	0.1	0.3	0.3	73.9	3.2	0.1	7.5	2.9	0.9	0.3	0.4			15.5	10.6	
奈良	7,608	67.1	2.1		6.2	1.1	1.4		77.8	3.4		8.3	5.3	1.6					18.5	3.7	
和歌山	6,480	59.9	4.3		1.2	1.2		0.6	67.3	3.7		11.7	8.0		0.6				24.1	8.6	
鳥取	3,922	54.9	1.0						55.9	6.3	1.9	13.6	8.7	2.9		1.0	1.0		35.3	8.7	
島根	5,090	54.7	4.7			0.8			60.2	6.2	3.1	11.0	11.6						31.9	7.9	
岡山	11,440	51.2	1.7		0.3	0.7		1.0	55.0	5.1		14.9	13.9	3.8	1.0	0.3	0.3	0.3	39.9	5.1	
広島	13,320	61.0			0.3	0.6			61.9	4.5		9.0	6.9	1.8	0.3	0.3			22.8	15.3	
山口	7,430	52.8	1.6	0.5				2.7	57.6	3.8	0.7	17.8	9.0	1.3	0.5			0.4	33.5	8.9	
徳島	5,195	58.7	3.6	0.8		1.2	0.9		65.1	5.0	0.6	9.3	9.9	1.7	0.8	0.6			27.9	7.0	
香川	5,950	60.3	1.1	0.7			0.8	1.2	64.2	5.6	1.0	11.7	7.1	1.6	1.2	0.5	1.1		29.8	6.1	
愛媛	9,665	64.8	1.0		0.2				66.0	7.7	1.1	10.8	9.9	0.4					29.8	4.1	
高知	5,050	54.5	0.8	0.8	0.8		0.6	1.6	59.0	7.9	1.6	15.0	4.8		0.6				29.9	11.1	
福岡	22,240	70.0	1.3	0.7			0.2	0.2	72.3	4.0	0.7	9.4	5.0	1.8		0.2	0.2		21.2	6.5	
佐賀	5,800	49.7	2.1				0.7		52.4	7.6		15.2	13.1	4.1					40.0	7.6	
長崎	8,680	53.4	1.8	1.4	0.9		0.2		57.8	6.9	0.9	13.8	7.8	1.4	0.5	0.3	0.5		32.1	10.1	
熊本	11,240	54.4	1.4	0.4			0.4		56.6	12.1	0.4	15.7	9.6	1.1		1.1			39.9	3.6	
大分	6,960	56.5	0.6	0.6			1.1		58.8	5.8	0.6	15.9	9.6	0.5		1.7			34.1	7.2	
宮崎	7,440	40.9	4.3					4.8	50.0	8.6	1.6	16.7	14.5	3.2		2.2			46.8	3.2	
鹿児島	10,446	52.5	1.1			0.4	0.8	2.3	57.1	6.9	1.1	17.6	9.2	1.9	0.8	1.1		0.8	39.4	3.4	
沖縄	14,640	57.4	2.5	2.2		0.5	0.3	2.2	65.0	6.0	0.5	11.2	9.8	1.4		0.5	0.8		30.3	4.6	

\*1 構成比は、中等教育学校後期課程を含めて算出している。大阪府は知的障がい生徒自立支援コースを含む。  
 なお、転編入学者、転勤者生徒、9月入学者、成人、中退者、外国人生徒等のための特別枠の定員は含まない。

4 公立高等学校の専攻科設置状況（令和2年度定員）

都道府県名	水産・看護関係			その他			
	学校名	学科名	定員	学校名	学科名	定員	
北海道	函館水産	機関	10	別海	酪農経営	20	
	小樽水産	漁業	10		富良野緑峰	園芸科学	20
		情報通信	10				
	美唄聖華	看護	80				
稚内	看護	40					
青森	八戸水産	漁業	10				
		機関	10				
	黒石	看護	40				
岩手	宮古水産	漁業	15	盛岡農業	農業(特別専攻科)	20	
				黒沢尻工業	工業技術(機械コース・電気コース)	12	
宮城	水産	海洋技術 航海コース 機関コース	10				
		気仙沼向洋	漁業 無線	10 30			
	白石	看護	40				
秋田				湯沢翔北	生産技術 介護福祉	10 20	
山形	山辺	看護	40	米沢工業	生産情報	10	
福島	いわき海星	海洋	10				
		無線通信	10				
		機関	10				
茨城	岩瀬	衛生看護	40				
栃木							
群馬							
埼玉	常盤	看護	80	新座総合技術	デザイン	15	
				秩父農工科学	情報機械システム	20	
千葉	幕張総合	(看護:学科名なし)	40				
	館山総合	(水産:学科名なし)	10				
東京							
神奈川	海洋科学	漁業生産	10				
		水産工学	10				
		情報通信	10				
新潟							
富山	富山いづみ	看護	40	中央農業	農業 担い手育成コース 庭園コース	約10 約10	
				雄峰(定)	生活科学 調理師養成課程	60	
				小矢部園芸(定)	園芸	約40	
石川	田鶴浜	衛生看護	40				
福井							
山梨				甲府工業	創造工学	20	
				甲府工業(定)	建築	30	
長野							
岐阜				多治見工業	陶磁科学芸術	30	
静岡	焼津水産	航海工学 航海コース 機関コース	15				
愛知	三谷水産	海洋技術 航海コース	5	瀬戸窯業	工業デザイン セラミック陶芸コース デザインコース	10 10	
		機関コース	5				
		情報通信コース	10				
	桃陵	衛生看護	40	愛知総合工科	産業システム 生産システムコース 情報システムコース 先端技術システム 自動車・航空産業コース エネルギー産業コース	10 10 10 10	
	宝陵	衛生看護	40				

都道府 県名	水産・看護関係			そ の 他		
	学 校 名	学 科 名	定員	学 校 名	学 科 名	定員
三 重	水産	漁業	10	四日市工業	ものづくり創造 機械コース 電気コース	10
		機関	10			
	桑名	衛生看護	40			
滋 賀						
京 都						
大 阪						
兵 庫	龍野北	看護専攻	40			
	日高	看護専攻	40			
奈 良						
和歌山	熊野	看護	40			
鳥 取						
島 根	浜田水産	漁業・機関	10			
	隠岐水産	漁業・機関	10			
岡 山	倉敷中央	看護	40			
	真庭	看護	40			
	津山東	看護	40			
広 島	広島皆実	衛生看護	40			
山 口	大津緑洋	航海 機関	10	周防大島	福祉専攻科	20名程度
		防府	衛生看護			
徳 島	富岡東	看護	40			
香 川	多度津	海洋技術	10			
	高松南	看護	35			
	飯山	看護	35			
愛 媛	宇和島水産	漁業・機関	10			
		水産増殖	10			
高 知	高知海洋	航海	10			
		機関	10			
	高知東	看護	30			
福 岡	水産	航海・機関	10	福岡農業	生物生産	20
					食品工学	20
佐 賀						
長 崎						
熊 本				球磨工業	伝統建築	10
大 分	海洋科学	海洋	10名以内			
宮 崎						
鹿 児 島	鹿児島水産	海洋技術	7			
		機関技術	8			
		情報通信	15			
	野田女子	衛生看護	40			
沖 縄	沖縄水産	漁業	10			
		機関	10			
		無線通信	15			

(出典) 文部科学省「学校基本調査」